

市内公立高校生生徒会代表が 自転車安全利用の推進宣言

市内にある公立高校3校合同による「自転車安全利用の推進宣言」が9月5日、習志野警察署で行われた。

津田沼高校、実祝高校、習志野高校の生徒会メンバーが粕谷高弘署長を前に「自転車事故をなくすために、生徒会として、自転車に乗るときはヘルメットを着用を促進するなど、自転車



宣言する高校生

電話de詐欺を未然防止 ファミリーマート習志野実売店 紺野さんに感謝状 アシストポリス制度が貢献



紺野さん(前列左)、池田巡査部長(前列右)、シーアンドエーFC事業部の小山瑜執行役員(後列中央)

電話de詐欺による被害を未然に防止した功労で、シーアンドエー株式会社ファミリーマート習志野実売店の紺野かおりさんが8月8日、習志野警察署の粕谷高弘署長から感謝状を贈られた。また、千葉県警察が6月から推進している「アシストポリス制度」で同店を担当し、防犯指導を行って

いる同署の池田和明巡査部長に対して署長即賞が授与された。副店長を務める紺野さんは、メモを手取りで探している60歳代の男性の様子がおかしいと感じた。尋ねると、購入額も高額で男性の携帯電話もつながっている様子だった。紺野さんは

「もし電話がつかないから、詐欺だから、買わない方がいいです。心配でしたらすぐに警察に連絡しますよ」と伝え、110番通報。到着した警察官が対応し、男性は被害を免れた。紺野さんが電話de詐欺の未然防止によって感謝状を受けるのは2回目。「池田巡査部長とはたびたびの巡回で、顔見知りになっていま

粕谷署長は「左側通行などのルールをしっかり守って安全運転に努め、万が一、事故に遭遇した際に命を守るヘルメットを積極的に装着していただきたい」と思っています。今後の生徒会活動を通じて、こうしたことを在校生に伝え、自転車事故に遭うことがない、楽しく有意義な高校生活を送っていただければと思います」と伝えた。



秋の交通安全運動出動式

秋の交通安全運動出動式 反射材で事故防止を 秋の全国交通安全運動に伴う出動式が9月20日、習志野警察署で行われた。秋の交通安全運動は9月21日から10日間、「反射材光って気づいて事故防止」をスローガンに県内一斉に実施された。反射材な

市は他市町村に比べ、自転車に関する交通事故の比率が高い。どの着用促進や安全な横断方法の実践、早めのライト点灯、飲酒運転ゼロに向けた取り組みの強化、自転車ヘルメット着用などが目標に掲げられた。

出動式で習志野警察署の粕谷高弘署長は「県内の交通事故死亡者は全国ワースト1位という憂慮すべき状態にあります。関係団体と協力して交通事故のない習志野市を実現したいと深く思っております」など訓示した。出動式には日本郵便も参加。イオンモール津田沼では関係団体も加わり広報啓発活動が行われた。

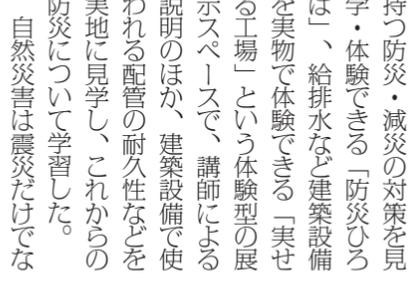
地域の復旧復興の時に備え インフラ協議会が千葉積水で防災・減災研修



パイプの耐水圧試験

市内の都市生活を支えるガス・水道事業者で構成される一般社団法人習志野市インフラ協議会では、インフラ面での地域防災の観点から、万一の災害に備え、復旧復興に役立つよう研修に取り組んでいる。道路、鉄道、通信網とともに上下水道、ガス管などは社会の基本的な設備・施設になっている。インフラ協議会加盟社が携わるいわ

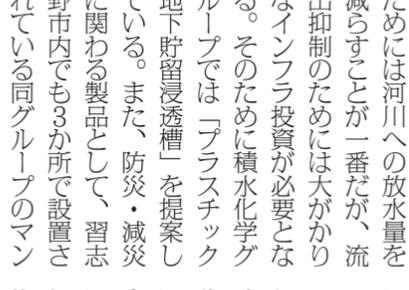
グループは住宅カンパニー、高機能プラスチックカンパニー、環境・ライフラインカンパニー、メディア環境・ライフラインカンパニーにあって、硬質塩化ビニルパイプなど各種パイプを製造し、ソリューションを行うほか、自然保護活動などによって地域コミュニティも図っている。



防災貯留型トイレシステム

千葉積水工業株式会社(市原市)を訪れた。積水化学なども上下水道、ガス管など社会の基本的な設備・施設になっている。インフラ協議会加盟社が携わるいわ

グループは住宅カンパニー、高機能プラスチックカンパニー、環境・ライフラインカンパニー、メディア環境・ライフラインカンパニーにあって、硬質塩化ビニルパイプなど各種パイプを製造し、ソリューションを行うほか、自然保護活動などによって地域コミュニティも図っている。



パイプの耐水圧試験

グループは住宅カンパニー、高機能プラスチックカンパニー、環境・ライフラインカンパニーにあって、硬質塩化ビニルパイプなど各種パイプを製造し、ソリューションを行うほか、自然保護活動などによって地域コミュニティも図っている。



パイプの耐水圧試験

グループは住宅カンパニー、高機能プラスチックカンパニー、環境・ライフラインカンパニーにあって、硬質塩化ビニルパイプなど各種パイプを製造し、ソリューションを行うほか、自然保護活動などによって地域コミュニティも図っている。

グループは住宅カンパニー、高機能プラスチックカンパニー、環境・ライフラインカンパニーにあって、硬質塩化ビニルパイプなど各種パイプを製造し、ソリューションを行うほか、自然保護活動などによって地域コミュニティも図っている。

グループは住宅カンパニー、高機能プラスチックカンパニー、環境・ライフラインカンパニーにあって、硬質塩化ビニルパイプなど各種パイプを製造し、ソリューションを行うほか、自然保護活動などによって地域コミュニティも図っている。

交通安全ニュース2024ちば

毎月更新中! 令和6年10月号 習志野警察署 県警ホームページ

歩行中のこどもが危ない!

歩行中死傷者数は、7歳が最も多い!

歩行中に、交通事故で死傷した方を年齢別に見ると、7歳が最も多いです。小学校へ入学したばかりの頃は、保護者と一緒に歩いていた道路も、登下校や友達との遊び等、一人で歩く機会が多くなります。特に、7歳児は交通の危険性の認識が十分ではなく、急な飛び出し等で交通事故に遭っていることが考えられます。

小学校1~2年生の歩行中の事故は、10月以降に急増!

小学校1~2年生の歩行中の事故は、10月以降に急増します。また、目的別では10月以降に学年を問わず、登下校中の事故が増加します。

学年	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
1~2年生	103	99	113	150
3~4年生	81	91	69	70
5~6年生	42	51	42	63

目的	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
登校	110	136	126	120
下校	62	57	57	96
私用等	54	48	41	67

保護者の皆様へ

このチャンネルは、Google LCCのサービスを利用の下、千葉県警察本部総務部広報課が運用しています(アドレスは令和6年8月時点のもの)です。

危険!! その瞬間をドライバーレコーダーは見ている!

教えてシーポップ第1話「とまる・みる・まつ」

- 通学路や子どもたちが遊ぶときの経路と一緒に歩いて、交通量の多い場所、見通しの悪い場所などを子ども目線で確認し、安全な横断場所や方法をくり返し教えましょう。
- 小学生に何らかの違反が認められた事故のうち、約8割が「飛び出し」でした。道路を渡るときは「とまる・みる・まつ」を子どもたちが実践しているのか確認しましょう。
- 道路を歩く時のルール(信号を守る、横断歩道を渡る、見通しの悪い交差点や車の間から飛び出さないことなど)をくり返し教えましょう。